



患者さん 地域の皆さんとのコミュニケーション情報紙

済生みと

No. **33**
2019
January

特集 入退院支援センターの活動を紹介



私達は 患者さんの悩み、苦しみに共感し
安全に十分に配慮しながら、良質の医療を提供します

写真 入退院支援を担当するスタッフ。前列右から3人目が入退院支援センター長を務める生澤義輔副院長。

地域連携を目指した院内体制づくり —地域医療連携と入退院支援について—

水戸済生会総合病院 院長 村田 実

地域の皆様明けましておめでとうございます。
本年もどうぞよろしく願いいたします。

高齢化社会の深まりを年を追うごとに実感します。医学や医療技術の進歩は言うまでもありませんが、福祉や介護制度をはじめとする社会保障政策も長寿社会到来に大きく寄与しています。現在、高齢者の生活の質を如何に確保するかが極めて重要な問題となっています。高齢者がこれまで自活してきた地域で多くの人に支えられて医療や介護の切れ目のないサービスを受けながら幸せな老後をおくれるような体制—地域包括ケアシステム—づくりが喫緊の課題ですが、国の財政事情や医療、介護関連職種の深刻な人材不足のため十分とは言えません。

地域包括ケアシステムの中での急性期病院の位置づけは日ごろ主治医として高齢者を診てくださっている診療所の先生方と協力して、また、救急医療の需要に応じて急性期医療を提供することにあると言えます。当院は主に急性期医療を担当しておりますが、地域の診療所の先生方の協力（病診連携）のお陰で紹介率（初診患者に対する紹介患者の割合）は62%まで伸び、また、入院患者に占める救急搬送患者も30数%となり、急性期病院として一定の地域貢献ができています。診療所の先生方との窓口は地域医療連携室で4名の事務員が専従で執務し、電話やFAXで患者情報のやり取りや診療の予約（全新患に対する予約新患の割合；26.7%）などを行い、また、必要に応じて患者さんを診療の現場までエスコートし不安や不便をかけないようにしております。地域医療連携室の設置で病診連携は圧倒的に効率良くなり、地域の先生方から好評を頂いております。紹介率や逆紹介率（80.3%）などの数字は年々僅かずつですが増加し続けており、これまで以上に地域の中で積極的に役割分担を推し進めてゆきたいと考えています。地域の先生方には積極的に連携室をご利用いただければと思っています。



ところで、入院を機に活動性の低下する高齢者は多く、それまで自立していた高齢者が病に伏せると極めて短期間の内に体力が衰え最早以前の自立した生活に戻るのが困難となってしまうことがしばしばあります。そのため国は入院期間をできるだけ短くする方策を考え診療報酬上に反映させています。つまり、入院料の在院日数に応じた増減（極めて効率よい治療により短期入院で済んだ場合の増額と長期入院となった場合の減額）と退院を促す対応への加算の2種類があります。後者には退院支援業務の評価と入院早期からのリハビリ介入があります。入退院支援業務は病床を効率よく運営する上で重要な部門であるためPFM（patient flow management）部門として多くの病院が積極的に取り組んでいます。

当院では入退院支援加算1を取得していますが、これに係る要件は退院支援に係る職員を手厚く配置し、入院3日以内に退院困難な要因を有する患者を抽出し、7日以内に家族と退院後について話し合い、多職種（看護師、リハスタッフ、社会福祉士、管理栄養士など）と連携して退院支援計画書の作成に着手し、またカンファレンスを行い、必要に応じて退院・転院後の療養生活を担う保健医療機関との連絡や調整を行うこととされています。当院ではこれら多職種の努力により一般病棟からの退院患者の28.6%においてこの加算を

本館受付前ロビーの一角にある入退院支援センター。患者さんのプライベートに配慮した面談スペースが設けられています。



算定し一般病床の平均在院日数は約12日まで短縮でき、在宅復帰率も92.8%と高水準を維持しております。

また、一般病棟からの退院患者の内、退院困難要因が多く自宅退院が困難な12.1%の退院患者では、退院支援部門（社会福祉士（5名）、専従の退院調整看護師（1名）などで構成）が介入し後方病院や施設を紹介したり、在宅支援をしたりしています。このように退院後の適切な療養場所を確保して福祉や介護支援に道筋を付けるのも社会福祉士をはじめ多くの医療職を抱える急性期病院の役割と考えています。

平成28年度半ばに入退院支援センターを開設しました。これには2つの目的がありました。1つは入院前に患者さんに入院生活の概略を知っていただき安心して入院生活を送っていただくための説明をすると同時に入院前に患者情報を収集して病棟看護師の負担を小

さくすることであり、2つ目は退院困難な要因をできるだけ早く把握し、早期退院に繋げることでした。入退院支援センターは専従看護師1名、専任看護師3名および事務員1名で運営し、必要に応じて薬剤師、管理栄養士、理学療法士などがサポートに入ります。予定入院患者の30数%にあたる170名/月前後の入院患者さんに利用していただいております。なお、このような入退院支援業務を推進させるために昨年の診療報酬改定で入院時支援加算が新設されました。より適切な入院療養と早期退院を目指す院内体制を評価する加算ですので積極的に対応し更に医療の質を高めてゆきたいと思っております。

超高齢化社会を迎え、私たちは高齢者に効率的で質の高い医療を提供する責務があります。どのような日常活動性を有する高齢者にどの程度の急性期医療を提供すべきかについてはいろいろな意見がありますが、患者さんご本人のお考えは勿論のこと、ご家族の意見を取り入れながら、院内多職種で議論をしながらもスピード感をもって最良の医療を提供すべきと考えています。そのような意味でも入退院支援業務は重要であり今後発展させなければならない部門と考えています。

以上、多職種が協力して患者さんがより良い診療を受けられる院内体制づくりの一端をご紹介させていただきました。

今年もご支援の程よろしくお願いたします。

（文中の数値は平成29年度データです。）



本館玄関脇に設置している地域医療連携室。連携医療機関との窓口業務を担当しています。

入退院支援センターの活動を紹介します

患者さんに寄り添った支援を行います

当院は2016年11月、入院予定患者の身体的・精神的・社会的リスクや不安を把握し、各種手続き等の一元化や、患者サービスの一層の向上に資することを目的に、入退院支援センターを設置しました。

入退院支援センターは、入院前・入院・退院後ま

で切れ目のない支援をしていくために、多職種、地域の関係者と深く連携し活動しています。

患者さんからのさまざまなご相談に対して、それぞれ専門職がお答えし、不安軽減や疑問を解消するための支援をしています。

安心して入院医療を受けていただくために

入院支援



入退院支援センター

主任看護師 竹島 美代子

私たちは、患者さんが安全で安心した入院生活を過ごし、治療後スムーズに退院できることを目的に、入院支援を担当しています。

業務の基本としているのは、

- ① 入院を予定している患者さんに、基本情報の収集と各種スクリーニングを行い、多職種と連携しスムーズな退院につなげるように支援する。
- ② 入院前から退院までのイメージを持つことで、安心して入院医療を受けられるように支援する。

ことです。

具体的な業務内容としては、

- ・身体的、精神的、社会的背景を含め

た患者情報の把握。

- ・入院前に利用している介護サービス、福祉サービスの把握。
- ・服薬中の薬剤確認（中止薬有無の確認、薬剤アレルギー有無の確認）
- ・入院中に行われる治療・検査・手術の説明。
- ・入院生活の説明、入院費用の概算、限度額適用認定証の説明、個室希望の有無の確認。

入退院支援センターでは、時間をかけて患者さんと向き合うことができ、入院が決まった患者さんが、安心して

治療に臨めるよう支援しています。また、入院前から関わることで、退院後の生活や社会復帰などのさまざまな不安を把握し、早期から退院を見据えた支援ができるようサポートしています。

入退院支援セン



入院される患者さんの希望を聞きながら、入院治療の計画を説明します。

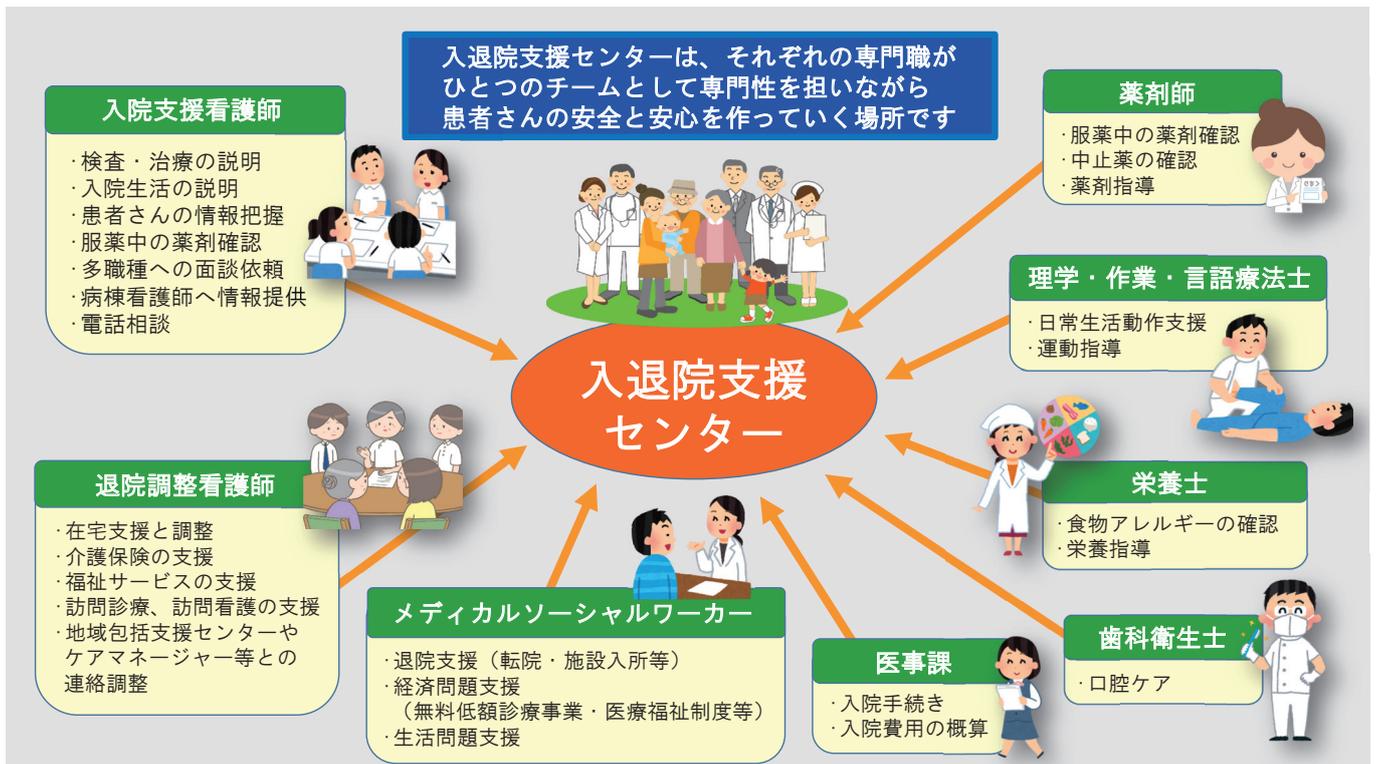
ター看護師は、入院・治療・退院の一連の流れを、多職種（主治医、外来看護師、病棟看護師、退院支援看護師、薬剤師、栄養士、メディカルソーシャルワーカー、リハビリテーション科、医事課）と連携し、コーディネートする役割があります。

現在は一部の予約入院のみ支援をしていますが、今後は各診療科、病棟と連携し、入退院支援センターでの支援を増やしていきたいと思えます。

安心して入院医療を受けていただくために、お困りのことやご要望がありましたら、お気軽に入退院支援センターへご相談ください。



「患者さんに寄り添う」ことがモットーの入院支援スタッフです



退院支援に欠かせない地域の力

退院支援



入退院支援センター 退院支援調整看護師
看護部課長 木島 照美

当院では退院支援業務として、医療相談室内で退院調整看護師3名と、医療福祉相談員4名（うち1名は入退院支援室担当）と、事務1名の配置で活動しています。

退院支援は、入院後患者さんと家族が、今の状態をどのように受け止めて、今後の療養生活を考えているか、寄り添いながら支援することが基本です。また、入院・退院・在宅復帰を通じて、切れ目のないサービスの提供を継続的に行うことが必須です。

具体的には、患者さんの入院後すみやかに自宅での暮らしや生活環境などの情報を収集し、生活介護上の問題を見極め、「退院後の生活」を一緒にイメージ出来るよう、患者さんと家族の目標を設定し、院内多職種、地域関係者と早期に連携し退院支援を行っています。

また、介護保険制度について、在宅

診療、訪問看護利用方法等についての説明や調整、地域包括支援センターや担当ケアマネジャー、介護支援担当者、施設等の関係機関との連携も図っています。

入院後生活の変化を余儀なくされた場合や、医療依存度の高い患者さんの場合などは、在宅での生活状況を把握するために、退院前に自宅訪問し生活環境を確認後、必要な福祉サービス等の検討を行ったり、退院前カンファレンスも行っています。

継続看護

では、入院前より入退院センターの看護師と連携を取り、入院後早期に面談し退院後の支援に取り組んでいます。

今後も患者さんとしっかり向き合い、心に寄り添う暖かい支援を実践していけるよう、努力していきたいと思っています。

患者さんを中心に退院支援チームのスタッフが参加し、退院前のカンファレンスを行います。退院される患者さんの状況に応じて、参加する職種ごとのスタッフの数も変わります。



患者さんの外来受診・入院から退院まで



外来受診

入院決定

入退院支援センター

入院

入院治療・リハビリ

病状安定・回復

退院決定

退院

在宅・転院・施設入所

入院時スクリーニング

入退院支援チームの多職種スタッフ間で患者さんの情報を共有

入院前面談

入院前の患者さんの要望を確認
多職種間で情報を共有

入院時面談

多職種で退院支援カンファレンス

患者さん・ご家族に退院後の生活の意向を確認



退院前カンファレンス

(患者さんの状況に応じて実施)



退院後のフォロー・情報共有

入院前からの入退院支援開始

- ・身体的、精神的、社会的背景を含めた患者さんの情報把握
- ・入院前に利用していた介護サービス等の把握
- ・栄養状態、床ずれ、転倒転落の評価
- ・服薬中の薬剤の確認
- ・入院手続き、入院生活、治療、検査等の説明
- ・入院費用、限度額適用認定証の説明

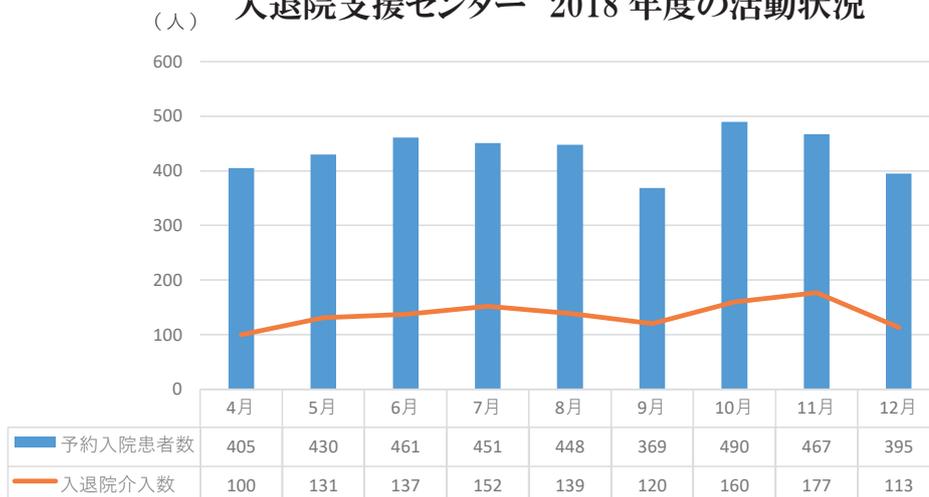
入院診療計画書を作成し本人とご家族に説明

退院支援活動開始

- ・在宅療養調整
(自宅の状況把握と条件整備等)
- ・転院調整
- ・訪問診療・訪問看護サービス調整
- ・介護保険等の申請方法の説明
- 地域との連携
- ・ケアマネージャー
- ・在宅診療医
- ・外来看護師
- ・地域包括支援センター スタッフ



入退院支援センター 2018年度の活動状況



地域の皆様に寄り添う脳外科医院



平成30年10月より、ひたちなか市馬渡に脳神経外科クリニックを開院いたしました岡部慎一と申します。私は、昭和59年弘前大学医学部を卒業後、同大学脳神経外科へ入局し、主に青森県内の病院で脳外科研修を行い、平成5年より日立市の脳神経外科専門・聖麗メモリアル病院にて勤務を開始いたしました。以後25年間茨城県北地域の脳疾患急性期医療に携わってまいりました。この間、診療患者数が多いこともあって、急性期の脳卒中診療ではだいぶ鍛えられました。平成30年、日立より南方面の脳疾患診療充実を目的に、そしてちょうど還暦という一つの区切りもあって、クリニック開院へと踏み出しました。

当院は無床クリニックで、1.5テスラMRIとCTを備え、脳疾患専門領域の診療を中心に据えますが、脳卒中発症を未然に防ぐ予防医療にも力を注ぐとともに、近隣の医療施設と密に連携し、患者さんの治療を行います。母体である聖麗メモリアル病院と当クリニックは双方向に電子カルテが接続されており、



医療法人聖麗会 脳神経外科

聖麗メモリアルひたちなか
院長 岡部 慎一 先生

脳神経外科 脳ドック

診療受付時間	月	火	水	木	金	土	日	祝
午前 8:30～11:30	○	○	—	○	○	○	—	—
午後 13:30～16:30	○	○	—	○	○	○	—	—

診療情報を共有できる体制になっています。この連携を後ろ盾に、地域の皆様の疾病治療、健康維持・増進に貢献できればと考えております。また、脳疾患というと、クモ膜下出血や脳腫瘍など、怖いイメージもあります。受診までのハードルを少しでも下げて、かかりやすいクリニックを目指すことで、ひいては脳卒中の早期診断、予防に繋がりたいと考えております。

〒312-0012 ひたちなか市馬渡 2835-2
TEL:029-219-8400 FAX:029-219-8011
ホームページ：<http://seirei-hitachinaka.com>



水戸済生会総合病院では連携医療機関の先生方との
合同症例検討会を開催しています

■ 31年2月～4月の開催予定 2月13日(水) 3月6日(水) 4月3日(水)

会場：当済生会新館5階 丹野ホール
日時：原則、毎月第1水曜日(1月・5月休会)、毎回午後7時に開会します。
内容： 1 当院医師による症例発表と意見交換
2 当院医師及び外部講師によるミニ講演
* この検討会に出席された方には生涯教育講座参加証を発行しています。

参加についてのお問い合わせは → 当院地域医療連携室まで 029-254-5151 (病院代表)

外来診療のご案内 ◆平成31年1月21日現在

診療科		月	火	水	木	金	
内科 受付(8:30~11:30)	初診	1診	青木(消化器)	郡司(腎臓)	荷見(腎臓)	千葉(循環器)	佐藤(腎臓)
		2診	柏村(消化器)	高橋(消化器)	大河原(消化器)	金野(消化器)	宗像(消化器)
		3診	樋口(循環器)	山田(循環器)	川原・後藤(循環器)	大平(循環器)	川松(循環器)
		4診	午後: 藤原道行(内)	午後: 藤原道行(内)	隔週交代	川上(代謝内科) 午後: 藤原道行(内)	樋口(循環器) 再診
	再診	1診	/	仁平(消化器)	第2・4は午後のみ 高橋(消化器) 第2・4午後 渡辺(消化器)	午後 大河原(消化器)	柏村(消化器)
		2診	午前: 山田(循環器) 第2・4午後 藤原(循環器)	長山(血液) 再診のみ	午後 會澤(循環器)	午後 石垣: (代謝内科) 23M(産科産科助産科のみ)	長山(血液) 再診のみ
		3診	第3は午後のみ 川松(循環器) 第3午後 堀米(循環器)	午後 後藤(循環器)	午後 金野(消化器)	午後 武田: (神経内科) 藤原道行(内)	午後 川原(循環器)
		4診	午後: 中山(消化器)	午後: 青木(消化器)	仁平(消化器)	午後: 宗像(消化器)	萩原(膠原病)
		循環器内科	岩瀬(循環器)	大平(循環器)	千葉(循環器)	村田(循環器)	
		腎臓内科	黒澤(腎臓)	椎名(腎臓)	海老原(腎臓)	佐藤(腎臓)	郡司(腎臓)
外科 受付(8:30~10:30)	午前	初診 第1,3 杉 第2,4 只成 第5 杉, 只成交代	貝塚	田野井	東	杉	
	再診	高久	田野井		高久	東	
	午後	予約制	田野井		第2,4循環器 高久	東	
心臓血管外科 呼吸器外科 受付(8:30~11:30)	1診	倉持	倉岡	権永	(休診)	三富	
	特診					第2,4 筑波大学 呼吸器外科 教授 佐藤 幸夫	
小児科 受付(8:30~11:30) 予約は慢性疾患のみ	午前	内谷	内谷	内谷	(休診)	内谷	
	午後		(相談, 予約制) 電話予約(14:00~14:00) 予約は慢性疾患のみ	内谷(予約制)		内谷(予約制)	
整形外科 受付(8:30~11:30)	午前	1診	秋山	星	犬飼	須藤	佐藤
		2診	須藤		佐藤	星	犬飼
		3診	野村	生澤	野村	秋山	生澤
午後		初診は紹介状持参の方、当院で入院・手術をされた方、1年以内に当院全科で受診歴のある方のみ。 専門外来 生澤(関節外科)			野村(脊椎外科)		
午後		午後15:00~16:00まで、いずれの曜日も予約制。					
形成外科 受付(8:30~11:30) 午後(15:00~16:00)	午前	初診	泉	藤田	第1,2,5 藤田 第2,4 佐々木	藤田	泉
	再診	芳賀	芳賀(第4中山)				芳賀
	午後	手術	藤田(再診のみ)	手術			泉(再診のみ)
脳神経外科 受付(8:30~11:30)	午前	1診	森	森	井口	岩元	森
	2診	井口				井口	渡辺
	午後					早野(13時~15時)	
皮膚科 受付(8:30~10:30)	午前	1診	神崎	神崎	古田(高向)	神崎	神崎
	2診	高向	高向	第3は神崎又は高向	高向	高向	高向
	午後	予約	予約	予約	予約	予約	予約
泌尿器科	午前	1診	池田	宮永	柳橋	宮永	宮永
	2診		福原	福原	柳橋		
	受付	月・金曜日(8:30~10:30)	火・水・木曜日(8:30~11:00)				
産婦人科 受付(8:30~11:30)	午前	初診予約外	担当医師	担当医師	担当医師	担当医師	担当医師
		産科	藤木	兒玉	山田	人見	中村
		婦人科	中村	益田	加藤	山田	第1,2,5 足立 第2,4 兒玉
	午後	産科①	遺伝・NIPT	母乳・産褥外来	母乳・産褥外来	遺伝・NIPT	母乳・産褥外来
		産科②	母乳・産褥外来	自己血貯血	足立・加藤	尚児	1ヶ月健診
専門外来1	藤木	益田	人見	尚児	1ヶ月健診		
専門外来2	佐藤	自己血貯血	自己血貯血予備日	尚児	1ヶ月健診		
眼科 受付(8:30~11:30)	午前	加畑	加畑	田崎	加畑	関	
		湯川	関	湯川	関	湯川	
耳鼻咽喉科	午前(8:30~11:30)	尾田	田中	担当医師	宮部	宮部	
	午後(14:00~18:30)	尾田	田中	担当医師		宮部	
ペインクリニック 受付(8:30~10:30)	午前	熊田	前田	大久保		奥山	
		初診は、紹介状持参の方、当院1年以内に受診のある方のみ。					
歯科口腔外科	午前(8:30~11:30)	武内・佐藤	武内・佐藤	武内(第1,2,5)・佐藤	武内・佐藤	武内・佐藤	
	午後(13:30~15:00)		武内(予約)・佐藤	武内(予約)・佐藤	午後7時(夜間救急の場合あり)		
放射線科	診療内科	予約制			遠田(不定期)		
	診療放射線科		橋本		唐澤(不定期)		
緩和ケア	14:00~18:00 (完全予約制)		吉村	斎藤	吉村	斎藤	
		(予約制) 予約は緩和ケア外来 → 病棟 電話 029-254-9195 (直通) まで					

■ 専門科の救急対応、緊急手術などにより、担当医師・診療時間を予告なく変更する場合があります。

■ 診療についての詳細は当院ホームページをご覧ください。(http://www.mito-saisei.jp)